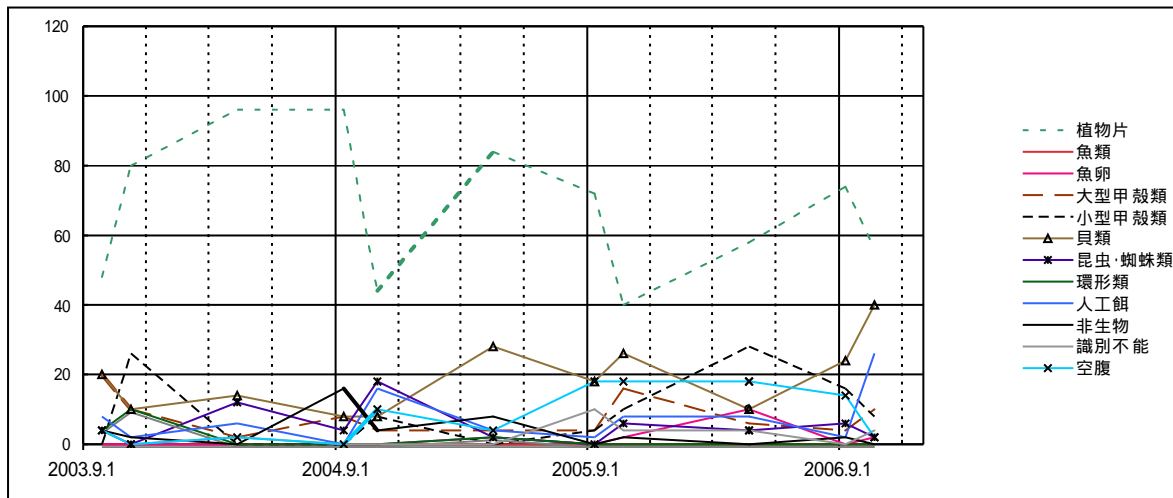


「ブルーギルの定期解剖から見る食性の季節変化」

琵琶湖を戻す会 田中宏明

2003年9月以降「琵琶湖を戻す会」の志那中での外来魚駆除大会（年3回）において駆除されたブルーギル中から無作為に抽出した50個体（ただし2003年9月と2004年9月は25個体）合計500個体について全長と体重を計測する以外に、解剖により性別、疾病の有無、胃内容物、耳石年輪を記録している。2003年から2006年の試料から検出した胃内容物を項目ごとに分類し、その検出率を整理した。その結果、春は藻類・水草片への依存度が明らかに高く、秋になるとエビ類や小型甲殻類等の食性の多様性が顕著になる様子が見られ、また、それにつれて異物食や偏食個体が顕著になる傾向が見られる。



消化できないと思われる非生物や、生物体でも消化できず、栄養源としても期待できない硬組織のみを選択摂取している異物食が確認された11個体は全てで、全体の性別比が♂:♀ = 307:153と優勢であることを考慮しても、異物食に有為な性差が存在する可能性が高いと考えられる。また、異物食個体とそれ以外の個体の体格に有為差は確認できなかった。

